



羽合小学校 学校通信

平成26年4月11日 NO, 4

「つかえる」ことが大切！！

先日お配りしたNo. 1で教育目標実現のための5つの基本方針を紹介しました。その中に「わかる」から「できる」、「できる」から「つかえる」へ子どもたちの生きる力を育成するということをあげました。今回はそのことについて少し説明をします。

学校では学級を中心とする集団での学習が行われます。集団で学ぶことによって、相手に伝えるために考えをまとめたり、深めたりすることができます。また、相手の考えにふれることで、ひとりでは考えたり深めたりすることのできなかった壁を越えることもできます。

しかし、そのためには教え合い高めあうことができる集団であることが必要です。思いを伝え合い、共に高まっていこうとする集団であることが必要です。このような「**まなびの集団**」を育てることが**学級経営**です。

学級経営は担任が中心となって行いますが、担任個々に経営を任せっぱなしにしているわけではありません。わたしたちの羽合小学校では学習集団作りを研究の中心に据え、様々な働きかけを一丸となって行っています。学級経営の重点は次の2つです。

【自治の育成】

- 生活の中で課題を見つける力の育成
- 課題解決策を形にして実現する力の育成
- 相手の意見を理解し、自分の考えとつなげる力の育成
- 多様な考えを調整したり、新たな考えに発展させる力の育成

【集団の維持】

- 助け合い望ましい集団活動を行う力の育成
- 学習の約束、生活の決まりを守る力の育成

具体的には、生活の課題に取り組むクラス会議、人間関係を深めるSST、学級集団の現状を捉えるQUなどの検査と分析、教科学習でのペア学習、小集団学習、考えを練り合う場面の設定など様々な取り組みを行っていきます。

まなびの集団ができていくにつれて、わからないことが「わかる」「より深くわかる」ようになります。できなかったことが「できる」「よりよくできる」ように変わっていきます。

では、「つかえる」というのはどういうことでしょうか。それは、学びを生活の中に生かすことに他なりません。課題を発見し、調べ考え、みんなと意見を交換ながらよりよい解決策を見つけ行動できる「**生きる力**」を身に付けるということなのです。よりよい学びの結果として点数はついてきます。しかし、点数だけが人の価値を決めるものではありません。感謝の気持ちを持ち自他のために労を惜しまない人に成長してほしいと願っています。そのために教育があります。

子どもたちは、あいさつの大切さは「わかり」、ハイ訓練などで「できる」ようになっています。あとは具体的な生活の場面、みんなでやって見せてやらせて、できたらほめて伸ばしてやりたいものです。つかえることが大切です。

様々な方が子供達の登下校を支えてくださっています。感謝の気持ちが「おはようございます」に込められるとうれしいです。学校も頑張ります。

羽合小学校 寺谷英則